

# 令和8年度 上春別中学校経営方針

## I はじめに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生をかじ取りすることができ民主的で持続可能な社会の創り手をみんなではぐくむことが求められるこれからの教育に関連して、本校では、子ども一人一人に、予測困難な未来社会を逞しく切り拓くための資質・能力を着実に育むことができるよう、全教職員の協働によるカリキュラム・マネジメントの確立と、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革を進め、教育活動の質の向上に取り組んでいる。これからも子どもたちが安心して登校し、伸び伸びと笑顔あふれる学校生活を送れるよう環境を整備すると共に、確かな学力を身に付け、学習や生徒会活動、部活動などに精一杯取り組み心身を鍛えていけるよう、教職員が一致協働し最大限の支援にあたりたい。

保小中共通教育目標「笑顔あふれる上春の子」～心豊かに未来に向かう上春の子の創造～と、コミュニティ・スクールスローガン「いってみよう！ やってみよう！」～のびのびとチャレンジする上春の子～のもと、教育スローガン「自ら感じ、考え、行動する生徒」を中学校の育成すべき資質・能力に位置づけ教育活動を推進してきた結果、失敗を恐れず何事にも進んで取り組む生徒が着実に増えてきた。また、互いの良さを認め合い生活を向上させようと努力する姿も見られ、協力性や自己有用感の高まりも感じられる。これらは小規模である本校の強みを生かし、生徒同士および生徒と教師が互いを認め合い尊重し合う教育活動を継続してきた成果である。これからもより良い関係性を築くと共に、家庭や地域、保小との連携を一層深め、「共生社会」という理念を学校の中で体現していきたい。

## II 学校経営の方針

「根室管内教育推進の重点」、「別海町教育行政執行方針」や「学習指導要領」等を踏まえ、学校の教育目標の実現を目指し、生徒、保護者、地域の期待や信頼に応える魅力ある学校を創造する。

そのために生徒や教職員のウェルビーイングの向上を目指し、心理的安全性の上に個性や能力の伸長と発揮、組織としての総合力の向上を図るとともに、保育園・小学校との連携のもと、義務教育の最終段階となる生徒の「知識」を高め、豊かな「心」を育み、健やかな「身体」を育むことで、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。

## III 上春別中学校の教育目標

- |        |   |
|--------|---|
| 1 教育目標 | 「笑顔あふれる上春の子」<br>～心豊かに未来に向かう上春の子の創造～（※小中共通教育目標）                    |
| 2 校訓   | 「自主」 自ら考え、正しく行動しよう<br>「協調」 広い心で、人と協力しよう<br>「実践」 粘り強く、何事にも進んで挑戦しよう |

## IV 目指す姿

1 教育スローガン 「自ら感じ、考え、行動する生徒」

2 CSスローガン 「いってみよう！ やってみよう！」～のびのびとチャレンジする上春の子～

3 学 校 像 「生徒も教師も楽しく学び、笑顔あふれる学校」

4 目指す生徒像

- (1) 学ぶ意義を理解し、目標に向かって意欲的に学習する生徒
- (2) 感謝の心を持ち、コミュニケーションを大切に仲間と協力できる生徒
- (3) 望ましい生活習慣を身に付け、心身ともに逞しい生徒

5 育成すべき資質・能力

「自ら感じ、考え、行動する生徒の育成」

- (1) 「何を知っているか、何ができるか」【知識及び技能の習得】  
「学んだことを相互に関連付け、学習や生活の場面で実践できる。」【実践力】
- (2) 「知っていること・できることをどう使うか」【思考力、判断力、表現力の育成】  
「根拠を持って自分の考えを説明することができる。」【根拠を持って表現できる力】
- (3) 「社会・世界とどのように関わり、よりよい人生を送るか」  
【学びに向かう力、人間性の育成】  
「粘り強く、失敗を恐れず挑戦することができる。」【何事にも挑戦できる力】  
「人の良さを捉え、思いやりを持って、ともに高め合うことができる。」  
【思いやりを持って行動できる力】

6 学校組織の姿

- (1) 全教職員が組織の一員としての自覚を持ち、一体となって学校教育目標の具現化を図る
- (2) 全教職員がそれぞれの特性を生かし、関わり合い補い合って、組織的に取り組む
- (3) 職員が互いに和を重んじ、尊重しあい、指導の方針を共有することで心理的安全性を確保する
- (4) 校務分掌の実効性と機動性を図る

7 教職員の基本的な構え

- (1) 【存在理念】教員自身が最大の教育環境である
- (2) 【方向性】生徒の生活において励みとなる発言と行動を発することを心がける
- (3) 【行動指針】チームワーク（協働）、ネットワーク（情報）、フットワーク（迅速）で支え合う

## V 今年度の重点

上春別（ここ）で良かったと実感できる教育活動の推進

- 1 確かな学力を育む（知）
- 2 豊かで逞しい心を育む（徳）
- 3 健やかな体を育む（体）
- 4 家庭・地域・保小とつながる（連携）

## VI 学校経営の重点における取組内容及び具体的な評価指標

重点	経営目標	学期の具体目標	取組内容・方法	評価
1	確かな 学力を 育む (知)	(1) 全ての子に基礎的基本的な学力を【教務部・研修・管理部】  ① 授業改革の推進 (校内研修の充実)	<p>○1単位時間で基礎基本を定着させる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴いて、書いて、話して、考える授業」(上春中トライアングル)</li> <li>【導入】(課題の提示、見通しをもたせる)</li> <li>【展開】(評価の観点に沿った教える場面と考え交流させる場面の設定)</li> <li>【終末】(まとめ(演習や実技等を通した学習の成果の実感)・振り返り)</li> </ul> <p>○単元全体を通じて課題を解決させる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に準拠し、単元全体を通した目標が明確な授業づくり</li> <li>・単元の評価計画に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく位置付ける</li> </ul> <p>○少人数の特性を生かした個別対応学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの適切な利活用による学習展開</li> <li>・協働的な学びと個別最適な学び場面の意図的な使い分け・往還による一体的な充実</li> <li>・「書く活動」「読解する活動」「コミュニケーション活動」の充実</li> <li>・有効なICT活用方法の共有</li> </ul> <p>○相互参観による専門性の向上</p>	<p>【教務】【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科経営案</li> <li>・学力学習状況調査</li> <li>・標準学力調査</li> <li>・学力テスト、等</li> </ul> <p>【主体的・対話的で深い学び】</p> <p>【単元で育成する力】</p> <p>授業評価アンケート</p> <p>指導主事訪問の活用</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特設研、公開研、ブロック研の継続</li> <li>・授業交流週間の利用</li> </ul>	
		② 教育環境の充実 【管理部を含む】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT環境の計画的整備</li> <li>・学習環境の日常的な点検・整備</li> <li>・地域教育教材・資源の有効利用</li> <li>・外部講師の積極的な授業活用</li> </ul>	<b>【教務】</b> ICT 機器の活用状況把握 <b>【管理】</b> 日常的な状況把握と環境整備
		③ 小中連携に基づく学習指導改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観を通じた教育実践の相互理解</li> <li>・積極的な情報交流と共通実践の視点変換</li> <li>・連続性を意識した学習指導と生徒指導 (中1ギャップ解消を意図した的確な情報引き継ぎ)</li> <li>・一貫教育を念頭に置いた総合的な学習の時間の整備</li> </ul>	<b>【全分掌】</b> 小中交流研 出前授業、合同運動会、CS 事業
		(2) 学習習慣の確立を目指して【教務部・研修、指導部】		
		①家庭学習習慣・ 読書習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目安の設定「学年×10分+10分以上」</li> <li>・家庭との連携の強化(スイッチオフ22)</li> <li>・家庭学習計画の立案・修正の支援</li> <li>・読書活動の推進(全校読書、図書委員会活動支援)</li> </ul>	<b>【教務・指導連携】</b> 自主学習の手引き 自主学習交流 生活習慣アンケート
		②自主学習や長期休業中の学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習交流やタブレットドリルの活用</li> <li>・学習場所の提供(夏季・冬季)の活用</li> </ul>	<b>【教務】</b> 自主学習の手引き 自主学習交流 家庭学習の充実 タブレットの活用
2	豊かで 逞しい 心を育む (徳)	(1) 道徳教育の充実のために【教務部・研修】		
		①「考え、議論する道徳」の指導・評価計画の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・特活・総合的な学習の時間と関連を図り、「道徳科」の教科書に対応した年間指導計画の工夫、評価計画の整備</li> <li>・学習指導要領に対応した道徳科の指導計画の見直しと指導方法の充実</li> <li>・多様な価値観に触れさせる場の設定</li> </ul>	<b>【教務】</b> 指導資料整理・保管 授業研 複数による指導体制
		(2) 生徒指導の充実のために【指導部】		

		<p>① 思いやりの心に 支えられた学校・ 学級づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最大の教育環境は教師であることを念頭に 対話を通した指導</li> <li>「いじめ未然防止」のための教職員の意識 改革と組織強化(予防と発生時の迅速対応)</li> </ul>	<p>【指導】</p> <p>ほっと いじめアンケート 生活習慣アンケート 教育相談</p>
		<p>② 「NO の取り組 み」生徒が主体と なり提案できる取 組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「上春中スタンダード」「やってみ YO!!FIVE LIFE」の改善充実の取組を通じて、生徒が 主体的に関わる「NO の取り組み」の実践</li> <li>「NO の取組」見直し、再定義</li> </ul>	<p>【指導】</p> <p>生徒会委員会</p>
		(3) キャリア教育の充実に向けて 【教務部・研修】		
		<p>① 保小中連携と CS による、夢や目標 に向かって懸命に 努力しようとする 取組の推進・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事・地域行事後における「キャリ アパスポート」を活用した自己の成長を 振り返る場面の継続</li> <li>進路相談の計画的・継続的实施</li> </ul>	<p>【教務】</p> <p>キャリアパスポート</p> <p>【指導】</p> <p>定例教育相談</p>
		<p>②望ましい勤労観・ 職業観の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験による職業観の育成</li> <li>日常の係活動等及び地域活動、ジュニア ハローワークへの参加の後押し等を通 じた勤労観、自己有用感、奉仕の心等の 醸成</li> </ul>	<p>【教務】</p> <p>総合的な学習の時間 職場調べ 職場体験 進路説明会</p>
		(4) 特別支援教育の推進のために 【校内特別支援委員会】		
		<p>① 「個別の指導計 画」「個別の教育支 援計画」の整備と 個に応じた指導の 充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画・個別の指導計画の 作成</li> <li>適切な生徒観察・理解や、職員間の情報交 流・共通理解に基づく指導・引継ぎ</li> </ul>	<p>【指導】</p> <p>校内特別支援委員会 小学校ほか関係機関 との連携 授業公開等情報発信</p>
3	健やかな体を 育む (体)	(1) 体力の維持と向上を図って 【指導部】		
		<p>①基礎体力づくり ②新体力テスト結果 の分析を生かした 指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上意欲の基盤となる「運動は楽しい」 を実感させる活動の工夫</li> <li>新体力テストの組織的な取組と結果の分析 を生かした保健体育科、運動会、委員会の</li> </ul>	<p>【指導】</p> <p>全国体力・運動能力、 運動習慣等調査</p>

			体力向上の取組の指導の充実	
		(2) 基本的な生活習慣の定着のために【指導部】		
		①望ましい生活習慣の定着や自らの健康管理を適切に行う態度の育成	・養護教諭を中心とした学校保健安全計画に基づいた指導の充実(歯科指導、性の学習、肥満対策など)	保健日より 保健室掲示物 授業への参加協力 校内保健委員会
		②家庭と連携した生活リズムの形成	・メディアの活用に関する家庭のルールづくり及びスイッチオフ22の取組強化	【指導】 生活習慣アンケート
		(3) 安全・安心な学校づくりのために【指導部・管理部】		
		①実行性のある防災と危機管理マニュアルの整備	・学校施設・設備の定期的な安全点検と日常的な安全指導の推進 ・定期的な避難訓練の実施と日常的な防災教育の推進(緊急時の対応力を高める) ・実際に即した避難想定	【指導】 避難訓練 【管理職】 危機管理マニュアルの改訂
		基本的な健康マナーの徹底と感染予防	・手洗い、うがい等の基本的な健康マナーの徹底。 ・感染拡大を未然に防ぐ健康情報の共有 ・国、道、町の施策動向の把握	/
4	家庭・地域・保小とつながる(連携)	(1) 家庭や地域、保・小と連携し一体化した学校運営のために【全分掌】		
		①学校を中核とした地域との協働	<b>【学校間】</b> ・保育園・小学校との連携教育の推進、連続した教育課程の創造 ・出前授業の計画化と継続 ・生徒指導交流、授業参観日の参観交流 ・学校評価アンケート(小中共通)の継続 <b>【家庭間】</b> ・適切な情報発信に基づく生徒個々の課題・成果の家庭との共有 ・広報活動(各種便り・ブログ)の充実 ・アンケート形式による保護者の学校評価の活用の推進 <b>【地域間】</b> ・地域と連携したコミュニティ・	<b>【教務】</b> 三者・二者面談 小中交流会 <b>【指導部】</b> 生徒指導情報共有 <b>【特支C】</b> 校内特別支援委員会 <b>【管理職】</b> 学校評価実施と結果共有 CS協議会との連携

			スクール制度の推進 ・服務規律（コンプライアンス）の厳守による生徒、家庭、地域との信頼関係の構築	地区連合会との連携 諸団体との連携
		<b>(2) 全教育活動を通した全教職員で組織的な取組がなされる体制づくりの充実【全分掌】</b>		
		<b>①客観的な調査結果を踏まえたマネジメントサイクルの継続</b>	・各種調査・検査・学校評価・生活習慣アンケート等の分析結果を生かしたマネジメントサイクル(目標～計画～実践～評価～改善)の継続 ・研修参加や研究活動の推進による指導力と専門性の向上	<b>【全分掌】</b> 活動終了時職員アンケート <b>各情報分掌内共有</b>

## VII 学校経営充実のための行動観点（指標）

### 1 学校経営マネジメントの観点から

- (1) 検証改善サイクルを通じて、学校全体で共通理解を図りながら学校改善に繋げる
- (2) 協働体制を確立した日常業務を推進する
- (3) 学校運営への参画意識を高める

### 2 人材育成の観点から

- (1) 校外・校内の研修参加を奨励し、教職員個々の資質・能力の向上を図る
- (2) 教職員間で日常的に学びあう学校文化を醸成する

### 3 働き方改革の観点から

「教職」は働きがいのある職業である。ただし「働きがい」を根拠に、意志と裏腹な環境で心身共に搾取される状況は決してあってはならない。本校は初任段階・中堅・ベテランの多様な立場の職員が勤務している。そして、それぞれが思い描く理想の働き方がある。大切なのはそれを互いに尊重し、時に影響し合って、一人ひとりが自身の働き方を見つめ直し、業務の質を高めようと意識することにある。

日々の生活を豊かにすることが自らの専門性や人間性を一層高め、効果的で質の高い教育活動となる、それが働き方改革の願いである。改革の目指す理念を共有し個々の意識がさらに高まるよう、本校においては、以下の取組を実行していく。

- (1) 会議を精選する。また、開催の時間を十分に確保する
- (2) 業務の偏りを正し、「ライフ・ワーク・バランス」の適正化を推進する
- (3) 日常的に業務分担の見直しを行い、その都度最適化を図る
- (4) 勤務時間、休憩時間を遵守する
- (5) 定時退勤日は月2回設定する
- (6) 学校閉庁日は年11日以上実施する
- (7) 部活動顧問は原則複数人の体制を組む
- (8) 部活動休養を完全に実施する（平日1日と週休日1日 年間73日以上）

## VIII コミュニティ・スクール（CS）との関わり

上春別学校区CSは、町内はもとより管内の先駆けとして、道標の無い状況で一から創り上げてきた歴史を持つ組織であり、各地区CSの標準モデルとして様々な事業を行い現在に至っている。上春別学校区CSでは、様々な連携活動を集約整理し、次の3つに分類している。

- 1 上春別学校区CS主催事業…CS運営協議会が主催、あるいは他団体と共催して実施する事業
- 2 地域活動協力事業…地区連合会など地域の各団体が主催する行事等への協力事業
- 3 学校応援事業…学校や保育園が教育課程の中で実施する教育的活動への支援事業

- 1のCS主催事業については、運営協議会事務局を中心に、主体性をもって企画・運営にあたっていく必要がある。CS主催事業は教育課程にも位置づけられているので、生徒については登校日、教職員については勤務日であり、全員参加を基本とする。
- 2の地域活動協力事業は、地域が主催する事業であり、主に休業日に開催されることが多く、一部を除いて参加は任意である。ただ、地域との連携を重視する立場から、ボランティア参加が期待される事業等について、学校としても極力生徒の参加を後押しするよう積極的な広報に努める。また、一部の人材に負担が偏らないよう配慮する。
- 3の学校応援事業は、効果的な教育活動、専門性の確保、教職員の負担軽減といった観点からも、一層拡充が期待される事業である。一方で、地域人材活用にあたっては、各事業における学校としての目的やねらい、地域人材に果たして欲しい役割などを丁寧に説明し、活動の丸投げにならないよう留意する必要がある。生徒にとって「楽しみな活動」にするためにも、「学校が主催する事業」であることを忘れず、事前のコミュニケーションを大切にしていきたい。